

アメリカ滞在記、⑭

ハワイの島々

霧野萬地郎

▼常夏の天国、ハワイ

イは仕事の訪問は一度だけホノルルに立寄ったが、家族と共に何度かに分けて島々を訪問する事ができた。

▼日本列島の様に大陸から移動して出来た島とは異なり、ハワイの島々は海底火山の噴火によつて生まれた。この為に、独自の生態系を残している。西暦300年から750年ぐらいに最初の人間が渡つて来たと言



ダイヤモンドヘッドからホノルル

う。ポリネシアから戦いに敗れ、カヌーに乗つて数百キロを逃れてハワイに辿りついたのが先住ハワイ人と言われる。その航法は星を羅針盤としたポリネシア航法だ。

1778年にキャプテン・クックの来訪

から欧州人の逗留が始まる。1795年にカメハメハ大王によるハワイ統一を経て19世紀になると、欧州人はハワイの白檀を中国に輸出した。白檀が取り尽されると、次に捕鯨基地として島の経済は成り立った。

19世紀末から砂糖産業が、続いてパイナップル産業が立ち上がり、多くの移民がアジアから農民として入った。1898年に米国に併合、そして、20世紀になると、米国の重要な軍事基地として島の経済を潤し、更に1959年に州に昇格し観光やリゾートへも力を入れた。

▼オアフ島のダイヤモンドヘッドに登ればホノルルの街と海岸が一望できる。旧火山の火口の底面から登る。一般的なコースなので、迂闊にも簡単な素足にサンダル履きで行ったが、山へ入ると道は狭く急峻だ。「履き慣れた靴、日除け帽子、十分な水を準備すべし」と掲示されている。山道入口から山頂まで高低差171mを30分位かける。途中で階段やトンネルもあり、最後は四層建ての砲撃統制所の金属階段を3階まで登る。山頂の展望台は狭く人が溢れていた。

そこからはエメラルド色の海、整然としたワイキキのホテルビルなどが一望できた。

真珠湾のアリゾナ記念館が印象深い。真珠湾攻撃で撃沈された戦艦アリゾナと、亡くなった千人以上の乗組員を追悼し、「真珠湾攻撃」の記念施設となっている。海底から海中に沈んだ戦艦からオイルが漏れだしており、海面まで上昇しているのを目視できる。このオイルは「アリゾナの涙」とも云われる。多くのアメリカ人観光客の中で、その場に居る些かの心地悪さを感じた。

遠雷や人みな黙の真珠湾

▼マウイ島は二つの島であったものが、現在の島南東部に位置するハレアカラ火山の噴火により流れ出た溶岩で繋がりが、今の形となった。ドライブで島を巡り、くねくねと曲がる道路は海沿い、そして、その対照的な渓谷や緑多き森林を走り抜ける。島中西部の港町ラハイナは、かつてハワイ王朝の古都であり、19世紀には捕鯨基地として栄えた。

バナナの葉をかざし飛沫の溪谷へ

▼カウアイ島はハワイ諸島の最北端に位置する。ほぼ円形の島の中央に標高1569mワイアレアレ山が聳え、太平洋上からの貿易風を遮るために、島東部と島西部では極端に気象状況が異なる。山頂付近ではその特異な条件から年間千ミリの降雨量を記録する。この豊富な降水による侵食作用でハワイのグランドキャニオンとも例えられるワイメア溪谷、鋭い山肌の露出した断崖を眺めるカラカウなど、独特の景観を形成して、展望台からの眺めは他のハワイ諸島とは異なる景観が見られた。

屹立の青嶺の裾は太平洋

▼ハワイ島はハワイ諸島で最大の島であることから、「ビッグアイランド」の愛称、こもレンタカーで島内を巡る。通過するヒロヤコナは静かな街で保養地だ。今でも火山活動が続いているキラウエア

火山の熔岩原に入ったが、道路が熔岩で寸断され、歩いて更に進むも、「立入禁止」の標識があり、そこまだった。その先の海壁から熔岩の海に落ちる白い湯気が立っているのが見える。

熔岩覆う黒き大地や夏の雲

夏の海望む移民の和式墓地

▼1990年は帰国して日本に住んでいたが、それまで在米中に各地を出張で使った航空会社の溜まったマイレージを使い切つて、家族全員で往復ビジネスクラスの贅沢なハワイ旅行を安価で楽しんだ。旅を終えての帰国便では、機長がわざわざ我々の席へ挨拶に来て、これまでの利用に謝辞を述べに来た。そして、記念のシャンパンを頂いた。当時の日本の航空会社では、こんな事は無かった。マイレージを使った無賃の乗客へは些か冷たい目線で接遇された記憶がある。当時の顧客への日米の考え方の違いなのだろうか。

▼2011年にはタンザニア生まれの次男が結婚式をオアフ島で挙げ、久々に訪ねた。ハワイの結婚式は若いカップルの憧れでもあり、日本側と連携された現地側の式準備も素晴らしかった。両家の身近な家族が集まる印象深い結婚式だった。



結婚式へ向かう新郎新婦

ホノルルの街やワイキキの白浜は正に南国の楽園で、アロハシャツの世界はリラックスの極みだ。この時は、オアフ島内を観光バスで巡り、タロイモやパイナップル畑、サーファー憧れの島北端の海岸、横綱・曙の出身地など、レンタカーでは見つけ難い所へ連れて行って貰った。ハワイには観光客を楽しませる様々な仕掛けが用意され、正に観光立国だと思ふ。

幼子の指立て「アロハ」風涼し

続く